

主任コラム2月号

主任 澤井 良子

生活発表会まであと1週間となりました。前回のコラムでもお伝えしましたが、生活発表会は、「言葉と表現の発達」を保護者の方にみて頂く場となっています。幼児クラスは特に、子ども一人ひとりができるようになったこと、自ら選択し仲間と協力して演目を仕上げている所も見どころだと思います。最初に何をしたいのか・・・から保育士と話し合い進めて取り組んでいく中で、自分が選んだことだけでも他の子の演目をみていたら「やっぱり変えたくなった」と保育士に伝えに来て変更する子もいました。自園では配役を決めた後でも、子ども達自身が伝えに来たらその思いを聞いて、その子の思いや取り組みたいという願いに寄り添えるようにしてあげることも大切にしています。それは、子どもが【自分の思いを伝えられる】とという事を成長の一つとして大事にしていること、子どもの権利条約の中に【第12条 意見を表す権利】があり、子どもは自分が関係あることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮しなければなりません】と記されているからです。日常の中でも大人は経験があり、先が想像できるからこそ「こっちのほうがいいんじゃない？」と答えを出したり、手を出し過ぎてしまったり、他の子と同じように・・・という思いから子どもを誘導したり、気付かないうちに支配してしまいがちになります。でもそれでは、子どもは「自分の思いを伝える」という事をしなくなり、大人の言う通りを選んでしまい自己発言の機会を失ってしまいます。私達大人は子ども達にどんな子に育てて欲しいのか。それは、人の意見も聞き入れ共感しつつも自分の意見も言える子だと思います。

また喧嘩やトラブルが起きた時に話し合うピーステーブルがあるのですが、そこでも自分の意見を言える子が増えてきた反面、相手はどう思ったのか、相手が自分に同じことを言ったらどう思うのか、などが気付けな場面も見られます。大人が解決法や代弁してしまうことは簡単ですが、そこは子ども達がどのようにして相手の思いに気付くことができるのか、話に折り合いをつけるのかのを見つける課程が大事だと私は思います。解決して謝ることだけが目的ではありません。そして子どもも、大人と同じ「人格」として考えや思いを認め尊重していける保育をしていきたいと思っています。

最後に生活発表会では、表現・言葉の発達もですが、周りと呼呼吸を合わせる事、緊張から友達存在に助けられるという人間関係の場面もみていただけたらと思います。日々過ごしてきた中で「発表会」当日が全てではなく、それまでの課程もお伝えし、当日までを保護者の方も楽しみにしていただけたらと思います。よろしくお願い致します。

生活発表会

